

2007 年 1 月 20 日 第 124 号



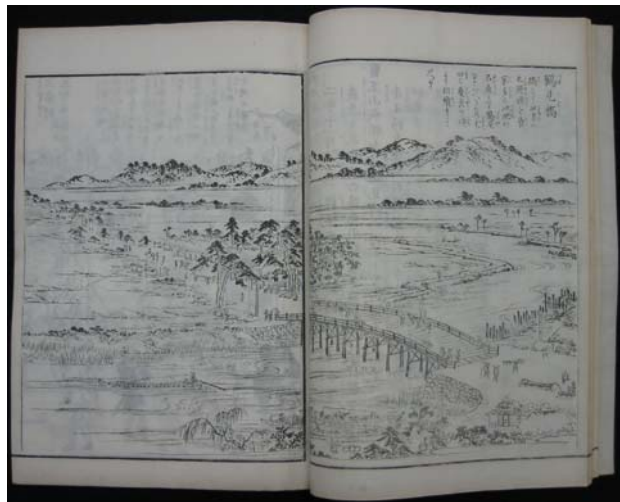
目 次

貴重書紹介『江戸名所図絵』	p. 1
神田と人 ―― 九代目草創名主 斎藤月岑幸成 ―― 武蔵野書院 前田智彦	p. 2-3
図書館からのお知らせ	p. 4

貴重書紹介 『江戸名所図絵』 明治 26 年（1893）博文館求版本 袋綴 20 冊

川波に鳥（都鳥か）を押し出した藍紙表紙（縦 26・0、横 18・6 糎）左肩に題簽、子持ち枠（縦 17・3、横 2・6 糎）中に「江戸名所図会 一（～二十）」。

全 7 巻であるが、巻第 1・2 を各 3 冊、巻第 3 を 4 冊の如く分冊し、合計 20 冊。最終冊末尾に「明治廿六年十二月十三日求版」以下の刊記、そこには発兌書林の博文館と、発行者大橋新太郎（1862～1944）の名前がある。博文館は明治の新興出版社として名高く、洋装本活字印刷で時代をリードした。したがって勿論掲出本は近代の後刷本だが、江戸名所の基礎資料を、進歩的出版の代表者博文館が刊行したことはあまり知られていないし、また明治文化の実態を知る上でもおもしろい資料といえよう。刊記部分には、これまた江戸趣味横溢の『江戸名所花暦』4 冊・『東都歳事記』5 冊の広告も見える。



『江戸名所図会』は、神田雉子町の名主斎藤家のあるじ斎藤幸雄が江戸および近郊を調査、子幸孝がその業を継ぎ、孫幸成（号月岑、1804～1878）の手によって高水準・大規模の名所図会が完成。全 20 冊の刊行が終了したのは天保 7 年（1836）、江戸市街のみならず房総半島から金沢文庫あたりまでを収載範囲とする、総合的な地誌である。現地へ出かけて直接対象を捉えた絵師長谷川雪旦（1778～1843）の精細な描写が、名所図会の価値を一層高めている。図版は巻二天璇之部、鶴見橋。奥に見える山の麓に、總持寺や鶴見大学が建てられることになる。

神田と人

—— 九代目草創名主 斎藤月岑幸成 ——

武蔵野書院 前田智彦

神田という土地は、実に多彩な人物を輩出している。古くは鏑木清方（日本画家）・林古溪（漢文学者）・五代目古今亭志ん生（噺家）。新しいところでは星由里子（女優）・山本コータロー（歌手）・三宅裕司（コメディアン）などなど……。そんな中に、地元神田でもあまり知られていない存在ではあるが、幕末から明治維新にかけての激動期を生きた町名主であり文化人、斎藤月岑幸成（さいとうげっしんゆきしげ）（以下月岑）がいる。

月岑は、文化元年（1804）、江戸神田の草創名主（くさわけなぬし）斎藤市左衛門家系に（生誕の月日は未詳）生まれた。草創名主とは、徳川家康が江戸入りする前から江戸に居を構えて名主になった者や、家康について三河や遠江から江戸に来て土地を開墾した者などで、草創、古町（こちょう）、平、門前の4階層からなる江戸の名主のなかでも格式ある家であった。江戸の名主の中でも幕府に一目置かれる存在で、正月三日、町の総代として江戸城に参賀もすれば、町奉行交代のおりには真っ先に御目見をするといった、いわば町人の代表格である。月岑は、文化十五年（1818）15歳で家督を継ぎ、草創名主二十四家のひとつ、斎藤家の九代目となった。名主としての支配地は神田雉子町・三河町三丁目・同裏町・同四丁目・同裏町・四軒町で、現在の神田司町と小川町の一部にあたる。幕末から名主を務め、江戸最後の名主の一人だった。

伝えられる人柄は謹厳実直にして博覧強記。幕府崩壊の時には月岑は65歳、名主に替わる維新後の新しい行政官（中年寄）の、繁忙を極める職務を、能吏として、淡々と処理したと云われている。

また、月岑は江戸やその周辺に関する地誌など貴重な記録を数多く残した神田の誇る文化人であり、その著作で有名なのが『江戸名所図会』『東都歳時記』『武江年表』の東都古典三部作である。ことに『江戸名所図会』（江戸およびその近郊の絵入り地誌）は祖父斎藤幸雄（長秋）の草稿を、父幸孝（県麻呂・莞斎）、幸成（月岑）の父子三代にして天保五年（1834）に三巻10冊、同七年に四巻10冊をものした力作だ。

いっぽう、草創名主としての職務の傍らで、月岑が残した隠れた著作物に『類聚撰要』（るいじゅうせんよう）があることはあまり知られていない。『類聚撰要』は、町年寄をとおしてのお触れや町奉行所からの町触れ・通達・諮問、月番名主からの意見上申・報告や町の記録などを集成したもので、神田の地域資料を豊富に含む貴重なも

のである。名主が自分の業務のためにまとめたものは他にもあるが、これだけ体系的に御触書の処理過程の記載や奉行所への回答文などがまとまっているものは無い。名主の仕事は、戸籍簿の管理や家屋敷の売買の認証、町民間のもめごとの調停、説諭に至るまで、実に多岐に亘っており、また、お触れや通達を町民に下達する役を担っていた。『類聚撰要』には、町奉行からの下達、それに対する名主層の公式文書から、御触書でいくら禁じても、毎度破ってしまう町民と、その間に入ってあやまったりなだめすかししたりする名主。懲りもせず繰り返し同じ通達が奉行・町年寄から出るさまが克明に記録され、興味が尽きない。『類聚撰要』は現在2種類存在している。ひとつは月岑が私家版に作った『類聚撰要』で、全六十巻あり、現在、伊勢神宮にある神宮文庫に33冊、都立中央図書館に下水篇が一卷あることが確認されている。ほかに、国立国会図書館にある旧幕引継書の中に本材木町の名主・多田内新助の蔵書印のある『類集撰要』（題簽に集とある）が全五十巻ある。ついでに言うと、『類聚撰要』をひっくりかえしたような『撰要類聚』もあり、こちらは名奉行大岡越前守忠相の編纂、勿論両者別物である。

こうして月岑が残してくれた数々の著作から、今日我々は往時の生活ぶりや町政について多くを学ぶことができる。しかし、「神田っ子」の大先輩、斎藤月岑は地元神田の人々にすらあまり知られておらず、その記念碑はもとより、生誕地や居住跡の案内板の1枚すら立っていなかった。

そんなおり、月岑についてもっと学びたいと、神田在住、在勤者中心の有志ら――私の出版社も、戦前からここ神田に根を下ろしている――により「市井人・月岑に学ぶ会」（後藤禎久会長）が発足した。同会は『類聚撰要』をはじめとする資料収集、翻刻などを通し、月岑の研究を進めているが、その事業の一環として、生誕200年を記念し、2004年11月27日、神田司町（現雉子町）の月岑居宅跡に顕彰碑が建てられた。

（マエダ トモヒコ）



図書館からのお知らせ

3月に卒業する皆さんへ

最終の返却期限は3月15日（木）です。

図書館から借りている本の返却をお願いします。長期間に渡って返却期限を過ぎたまま、返却されない本が増えています。返却されないまま卒業されると、実家や就職先に督促の連絡をすることになります。在校生の皆さんが利用する際に支障を来しますので、借りた本は必ず返却下さい。

卒業後も本を借りたい方は

卒業生の皆様には1年間有効な『図書館利用カード』を発行します。500円の登録料で、申請日から翌年の申請日まで有効です。卒業式以降に発行いたします。

貸出冊数3冊、貸出期間1ヶ月です。

図書館利用カード	
利用者No.	7999007995
氏名	横浜 太郎 (卒業生:2008/3/23まで) 有効期限:在籍期間中
鶴見大学図書館	

視聴覚室は2月1日（木）～4月17日（火）まで閉室します。

卒業記念展示



日 時 3月23日（金） 9時～14時
場 所 図書館1階展示コーナー
展示品 源氏物語扇面貼交屏風 文化元年(1804)制作 6曲2隻
(げんじものがたりせんめんはりまぜびょうぶ)

卒業記念撮影

当日は閉館ですが、屏風の前でも、館内でも、自由に記念撮影ができます。



アゴラー鶴見大学図書館報－ 第124号 2007年1月20日発行

編集・発行 鶴見大学図書館

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3 Tel:045-580-8274 Fax:045-584-8197

鶴見大学図書館ホームページ <http://library.tsurumi-u.ac.jp/library/>